

## 高等学校の教科書俳句の変遷 —俳句史の視点から

徳永辰通

### Changes in haiku in high school textbooks —Analysis from the viewpoint of haiku history

TOKUNAGA, Tatsuyuki

#### 1 はじめに

言語活動の充実が図られた現行の学習指導要領を見ると、『小学校学習指導要領』では「第三学年及び第四学年」に「身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。」とあり、「第五学年及び第六学年」には「経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。」とある<sup>注1</sup>。『中学校学習指導要領』の「第二学年」では「表現の仕方を工夫して、詩歌をつくったり物語などを書いたりすること。」とあり、『高等学校学習指導要領』の「国語総合」においても、「情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。」とある。このように、小学校から高等学校にかけての学習指導要領の言語活動例に、創作の活動が示されている。そのため、近年の実践報告は鑑賞のみならず、創作に関わるものも多く見られる。

鑑賞に関わるものに、吉樂均（2013）、小川雅子・武田優実（2019）がある。吉樂（2013）は中学生を対象に「事実」、「考察」、「判断」の知的活動を通し、鑑賞文作成の指導をおこなっている。小川・武田（2019）は中学生に俳句の鑑賞、批評を通し、批評文作成の指導をおこなっている。吉樂（2013）、小川・武田（2019）は鑑賞にとどまるのではなく、鑑賞を通し、鑑賞文・批評文を作成するという、言語活動を取り入れた実践となっている。

創作の実践をおこなっているものに石塚修（2013）、植阪有理・光嶋昭善（2013）、桃原智英子・松本修（2015）、小川雅子（2018）がある。石塚（2013）は、俳句と川柳の差異の説明に「切れ」が好適であること、および初学者には二句一章の取り合わせ句が創作しやすいということを踏まえ、高校生を対象に「切れ」を意識した俳句の創作指導をおこなっている。その結果、「一物仕立て」の写生句より二句一章の取り合わせ句のほうが作りやすいものであることを確認している。植阪・光嶋（2013）は小学校で児童が創作した二句一章仕立ての俳句を相互に鑑賞しあう活動をおこなっている。読解プロセスには字義通りの意味をとらえる段階と、その結果で表れる表象に知識や体験を組み込みより豊かな表象を構成する段階とがあり、この活動は後者において効果が見られることを指摘している。桃原・松本（2015）は中学生に二句一章の句の創作を取り入れた授業をおこない、その様相を分析・検討している。小川（2018）は小学生に俳句を創作させ、さらに俳句を短冊へ書写させるというように、創作から表現活動へと発展させている。

このように近年の実践報告は鑑賞にとどまらず、鑑賞文・批評文作成をするもの、または俳句の創作活動を取り入れるものというように、言語活動を取り入れたものがほとんどであり、なかでも創作に関わるものも多く見られる状況にある。そうすると鑑賞と創作の連続が課題となる

う。鑑賞から創作へと連続させるのに俳句を例示する方法がある。例えば、小瀬千恵子（2012）は正岡子規の俳句の特徴として「物の形、状態の写生、印象明瞭な表現」、「配合」、「感覚的表現」などを挙げている。「配合」や「感覚的表現」などの特徴を有する俳句を例示し、同様の特徴を持つ俳句を創作させるという方法である。この他、俳句史の知識から創作へと連続させる方法もある。俳句史は俳句理論・作句方法により語られる。この知識を利用し俳句を創作する方法である。この立場を取る場合、教科書でどのような史的類型を提示しているのか明らかにしておく必要があろう。そこで、本稿は高等学校で用いられる国語の教科書に取り上げられている俳句の変遷を俳句史の視点から考察し、「国語総合」に取り上げられている俳句の特徴を概観する。

## 2 先行研究

これまでの教科書における俳句の考察は、教科書にどのような俳句を取り上げているか、教科書でどのような俳句の取り上げ方をしているかという、大きく二つの視点からおこなわれている。

どのような俳句を取り上げているのかという視点のものに、貞光威（1987）、貞光威（1997）、入江昌明（2005）、入江昌明（2006 ①）、入江昌明（2006 ②）がある。貞光（1987）は高等学校の「国語Ⅰ」（昭和56年）、「国語Ⅱ」（昭和57年）の教科書全17種に収載されている俳句・俳人の一覧を示し、計量的調査をおこなっている。そのなかで、俳句史的側面にも触れ、伝統的な俳句形式にとらわれない新傾向俳句、自由律俳句、前衛俳句が一部の教科書に収載されていることを指摘している。貞光（1997）では高等学校「国語Ⅰ」（平成6年）、「国語Ⅱ」（平成7年）の全26種を対象に貞光（1987）と同様の調査をおこなっている。そして貞光（1987）の調査と比較し、自由律俳句、無季俳句の占める位置が大きくなっていることを指摘している。入江（2005）は平成17年度に小学校において使用予定となっていたすべての教科書の俳句一覧を示し、著名な俳人の有名作品を収載する傾向が著しいことを指摘している。入江（2006 ①）、入江（2006 ②）は、平成になり改訂された教科書（平成2年、5年、9年、14年、18年）のすべてに収載されている俳句を一覧にしている。

次にどのような俳句の取り上げ方をしているかという視点のものに藤田万喜子（2008）、仁野平智明（2016）がある。藤田（2008）では、「切れ」を意識した鑑賞指導を提案し、そのなかで中学校の国語教科書（平成18年）における「切れ」の扱いを調査している。仁野平（2016）は、平成20年版学習指導要領で新設された「伝統的な言語文化に関する事項」が小学校国語教科書の俳句教材に与えた影響を考察している。改訂前（平成16年検定済み教科書）と改訂後（平成22年、平成26年）の小学校国語教科書を比較分析し、「鑑賞重視」「伝統性の希薄化」という「学習指導要領のねらいを逸脱した教材化の方向性」にあることを指摘している。

以上、教科書における俳句を考察するものを見てきた。どの教科書にどの教材が収載されているかを知るのに、『教科書編集趣意書』を用いることもできる<sup>注2</sup>。しかし、『教科書編集趣意書』には、小説、評論の教材名は記載されているが、誰のどの俳句、短歌が収載されているのかまでは記載されていない。貞光（1987）、貞光（1997）、入江（2005）、入江（2006 ①）、入江（2006 ②）は教科書に収載されているすべての俳句を網羅しており、変遷を考察する資料として有益である。なお、本稿末の〔別表2〕に「国語総合」（平成27年度使用）全23種の教科書に収載された俳句の一覧を示す。

### 3 分析の方法

#### 3.1 分析の対象

本稿では貞光（1987）、貞光（1997）と、平成 27 年度使用の「国語総合」の教科書 23 種に取り上げられている俳句とを用い、俳句史の観点でその変遷を考察していく。

貞光（1987）と貞光（1997）は「国語Ⅰ」「国語Ⅱ」の教科書の俳句を調査しているが、その基準が異なる。貞光（1987）では鑑賞文中の俳句を含まないが、貞光（1997）ではそれを含んでいる。貞光（1987）の「国語Ⅰ」（昭和 56 年）、「国語Ⅱ」（昭和 57 年）の鑑賞文中に取り上げられている俳句が不明であることから、本稿では調査基準の統一を優先し、鑑賞文中の俳句を除いた平成 27 年度「国語総合」の調査結果を用いる。貞光（1997）においても、鑑賞文中の俳句を除き、比較、考察していく。

#### 3.2 俳句史の枠

俳句史の枠は山下一海（1999）を用いる。管見に入る限り、山下（1999）が史的類型をより細分しているためである<sup>注3</sup>。山下（1999）からは「正岡子規」、「新傾向俳句」、「自由律俳句」、「第三の境域」、「ホトトギス主観句」、「ホトトギス客観句」、「新興俳句」、「人間探求派」、「戦場俳句」、「戦火想望俳句」、「根源俳句」の十一類型が抽出できる。このうち、「第三の境域」に含められる俳人と、「戦場俳句」、「戦火想望俳句」は、貞光（1987）、貞光（1997）および筆者の調査した「国語総合」の教科書に見られなかった。また、「根源俳句」について山下（1999）は次のように述べる。

根源という語は文学用語としてはなほだ曖昧であり、「天浪」同人でも、根源俳句の意味するところは各人さまざまに受け取っており、具体的なイメージは統一のしようもなかった。

（山下（1999）276 頁）

俳句理論、作句方法が具体的に定まったものではないことから「根源俳句」は考察に用いない。山下（1999）には「社会性俳句」「造型論」「前衛俳句」という語も見られる。しかし、どのような俳句理論なのか一切触れていないため、これらについても考察には用いない。

山下（1999）から〔別表 1〕に示した俳句史の枠を抽出した。そのなかで、本稿が用いる俳句史の史的類型は①「正岡子規」、②「新傾向俳句」、③「自由律俳句」、④「ホトトギス主観句」、⑤「ホトトギス客観句」、⑥「新興俳句」、⑦「人間探求派」である。以下、この俳句史の枠を用い、考察していく。なお、これらの史的類型を以下では①～⑦の記号を用いて表す。

### 4 「国語総合」(平成 27 年度) の調査

「国語総合」(平成 27 年度) 全 23 種の教科書に収載されている俳句を調査した結果が〔別表 2〕である。以下、「国語総合」(平成 27 年度) を「国総」とする。本稿では〔別表 2〕を用い、考察していくが、その前に「国総」における俳句の取り扱いについて概観しておく。「国総」の 23 種類の教科書が収載している句数、鑑賞文の掲載の有無、言語活動で俳句を取り上げているかどうかをまとめて〔表 1〕に示す。〔表 1〕の掲載句数には、鑑賞文に収載されている句は入れていない。なお、表中の教科書番号は〔別表 2〕および〔別表 5〕と対応している。

まず、「国語総合」(平成 27 年) の教科書で俳句を取り上げているのは、23 種中 22 種の教科書

である。俳句を取り上げていないのは教科書番号21のみである。また、収載している句数を見ても、少ないもので教科書番号8の10句、多いもので教科書番号4の26句となっている。

「国語総合」(平成27年)の教科書に収載される俳句は延べ357句で、教科書1種あたりの平均収載句数は15.5句である。

鑑賞文の有無を見てみると、鑑賞文を収載しているものは23種中4種で、いずれも大岡信の「折々のうた」を採用している。また、言語活動で俳句を取り上げているものは23種中4種である。そのうち詩歌集の作成を取り上げているのが2種(教科書番号8、11)で、俳句の創作を取り上げているのが3種(教科書番号1、7、8)である。現行の学習指導要領の「B書くこと」では、言語活動例として「ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。」とある。俳句の創作を取り上げる教科書が23種中3種とわずかであり、俳句の取り上げ方としては鑑賞(C読むこと)中心であることが見て取れる。

〔表1〕「国語総合」(平成27年)の収載句数、鑑賞文、言語活動一覧

教科書番号	収載句数	鑑賞文	言語活動
1	12句		言語活動編 4俳句をつくる
2	16句	大岡信「折々のうた」	
3	16句	大岡信「折々のうた」	
4	26句		
5	21句		
6	12句		
7	12句	大岡信「折々のうた」	表現の扉7 俳句を楽しむ
8	10句	大岡信「折々のうた」	表現9 詩歌を作って作品集にしよう ズームアップ⑩ 句会を開いてみよう
9	12句		
10	12句		
11	12句		表現の窓 アンソロジーを作ろう
12	16句		
13	16句		
14	24句		
15	24句		
16	18句		
17	16句		
18	21句		
19	21句		
20	16句		
21	－		
22	12句		
23	12句		

次に、俳句の配列の仕方を〔表2〕に示す。

〔表2〕「国語総合」(平成 27 年) の俳句の配列

教科書番号	収載句数	題	配列
1	12 句	春風や【俳句】	「自然」「生活」「旅路」「希望」のテーマごとに 3 句ずつ収載。
2	16 句	白牡丹―俳句抄	正岡子規ほか 7 名、2 句ずつ収載。
3	16 句	白牡丹―俳句抄	高浜虚子ほか 7 名、2 句ずつ収載。
4	26 句	いくたびも―俳句二十一句	正岡子規ほか 6 名、3 句ずつ収載。 「今日の俳句」5 句。
5	21 句	いくたびも―俳句十六句	正岡子規ほか 7 名、2 句ずつ収載。 「今日の俳句」5 句。
6	12 句	春のオルガン 俳句十二句	「音楽」「光」「生きもの」「人と人」のテーマごとに 3 句ずつ収載。
7	12 句	俳句	正岡子規ほか 5 名、2 句ずつ収載。
8	10 句	俳句	「春」「夏」「秋」「冬」などのテーマごとに 2 句ずつ収載。
9	12 句	俳句 十二句	正岡子規ほか 11 名、1 句ずつ収載。
10	12 句	俳句 十二句	正岡子規ほか 11 名、1 句ずつ収載。
11	12 句	俳句	正岡子規ほか 11 名、1 句ずつ収載。
12	16 句	俳句	正岡子規ほか 5 名、2 句ずつ収載。 加藤楸邨ほか 3 名、1 句ずつ収載。
13	16 句	俳句	正岡子規ほか 5 名、2 句ずつ収載。 加藤楸邨ほか 3 名、1 句ずつ収載。
14	24 句	万緑の中や	高浜虚子ほか 7 名、2 句ずつ収載。 室生犀星ほか 7 名、1 句ずつ収載。
15	24 句	万緑の中や	高浜虚子ほか 7 名、2 句ずつ収載。 室生犀星ほか 7 名、1 句ずつ収載。
16	18 句	俳句	「春」「夏」「秋」「冬」「無季」「現代の句」のテーマごとに 3 句ずつ収載。
17	16 句	俳句	正岡子規ほか 7 名、2 句ずつ収載。
18	21 句	こころの帆	正岡子規ほか 6 名、3 句ずつ収載。
19	21 句	こころの帆	正岡子規ほか 6 名、3 句ずつ収載。
20	16 句	手毬唄	高浜虚子ほか 7 名、2 句ずつ収載。
21	－	－	－
22	12 句	俳句 十二句	正岡子規ほか 11 名、1 句ずつ収載。
23	12 句	俳句 十二句	正岡子規ほか 11 名、1 句ずつ収載。

〔表2〕を見ると、配列の仕方は俳人ごとに配列しているものと、テーマごとに配列しているものとに大別できる。俳人ごとに配列しているものは 18 種、テーマごとに配列しているものは 4 種となっており、俳人ごとに配列するものの方が多い。

一部の教科書には、「今日の俳句」(教科書番号 4、5) や「文人俳句」(教科書番号 14、15) と題し、中心となる俳句教材と区別して挙げているものも見られる。なお、本稿は「今日の俳句」、「文人俳句」に収載されている俳句も含め考察する。

## 5 高等学校教科書俳句の変遷

### 5.1 教科書に収載される平均句数と鑑賞文

教科書に収載される平均句数と鑑賞文を示し、その変遷を概観する。以下、貞光 (1987) の調

査対象である「国語Ⅰ」(昭和56年)と「国語Ⅱ」(昭和57年)をまとめて「国・昭和」とする。貞光(1997)の調査対象である「国語Ⅰ」(平成6年)と「国語Ⅱ」(平成7年)をまとめて「国・平成」とする。「国語総合」(平成27年)は「国総」とする。

教科書1種あたりに収載されている平均句数の推移は〔表3〕になる。

〔表3〕教科書1種あたりに収載されている句数の推移(%)			
	「国・昭和」	「国・平成」	「国総」
平均句数	25.8	25.3	15.5

貞光(1987)によると、「国・昭和」の17種の教科書に延べ439句見られ、1種の教科書に収載されている句数の平均は25.8句である。貞光(1997)によると、「国・平成」の26種の教科書に延べ657句見られ、平均は25.3句である。「国総」の23種の教科書には延べ357句見られ、平均は15.5句である。平均句数を見ると、「国総」では収載句数が減少している。

次に、鑑賞文収載率を見してみる。鑑賞文の収載率は〔表4〕のようになる。

〔表4〕鑑賞文の収載率(%)			
	「国・昭和」	「国・平成」	「国総」
収載率	47.1	23.1	17.4

「国・昭和」では17種中8種、「国・平成」では26種中6種、「国総」では23種中4種が鑑賞文を収載している。鑑賞文の収載率は「国・昭和」から「国総」にかけて減少していることが見て取れる。次に、収載されている鑑賞文一覧を〔表5〕に示す。

収載されている鑑賞文を見ると、「国・昭和」では著者に飯田龍太、加藤楸邨、中村草田男、川崎展宏、秋元不死男、大岡信の6人が見られる。「国・平成」では大岡信、飯田龍太、編集委員会など5人、「国総」になると大岡信のみとなっており、「国・昭和」から「国総」にかけて教科書に収載されている鑑賞文の種類が減少している。

以上、「国総」では収載される句数および鑑賞文の種類が減少し、俳句教材に狭まりがみられることを指摘した。

〔表5〕 収載されている鑑賞文の推移

「国・昭和」	「国・平成」	「国総」
「野面積みの石垣」飯田龍太（BⅡ）	「折々のうた」大岡信（aⅠ）	「折々のうた」大岡信（2）
「生きている時間」加藤楸邨（EⅡ）	「野面積みの石垣」飯田龍太（dⅡ）	「折々のうた」大岡信（3）
「俳句の鑑賞」中村草田男（FⅡ）	「俳句とは」編集委員会（gⅠ）	「折々のうた」大岡信（7）
「俳句遠近」加藤楸邨（JⅠ）	「折々のうた」大岡信（hⅠ）	「折々のうた」大岡信（8）
「雲に鳥」川崎展宏（MⅠ）	「季節と歳時記」編集委員会（jⅠ）	
「俳句の鑑賞」秋元不死男（NⅠ）	「俳句の魅力」松本恭子（tⅡ）	
「折々のうた」大岡信（NⅡ）		
「俳句の鑑賞」中村草田男（OⅠ）		
「折々のうた」大岡信（OⅡ）		
「俳句は野面積みの石垣に似ている」飯田龍太（PⅡ）		

※「」は鑑賞文の題、その右は鑑賞文の著者名を表す。「国・昭和」、「国・平成」の（ ）のアルファベットおよび「国総」の数字は教科書の種類を表す。アルファベットは「国・昭和」が〔別表3〕と、「国・平成」が〔別表4〕と対応する。「国総」の数字は〔別表2〕〔別表5〕と対応する。「国・昭和」、「国・平成」のアルファベットの右の「Ⅰ」は「国語Ⅰ」に、「Ⅱ」は「国語Ⅱ」に収載されていることを表す。

## 5.2 俳句史レベルで見た収載率の推移

ここからは俳句史レベルの収載率の推移を見ていく。「国・昭和」、「国・平成」、「国総」に収載されている俳人一覧は、それぞれ〔別表3〕、〔別表4〕、〔別表5〕の通りである。以下、これらを基に考察していく。まず、俳句史レベルで見た収載率の推移は〔表6〕のようになる。

〔表6〕 収載率の推移（％）

	「国・昭和」	「国・平成」	「国総」
①	70.6	80.8	78.3
②	47.1	38.5	17.4
③	29.4	69.2	82.6
④	76.5	69.2	60.9
⑤	100	88.5	95.7
⑥	100	100	95.7
⑦	100	100	87.0

「国・昭和」から「国総」の間で収載率の差が15ポイント以上あるものは②、③、④である。貞光（1987）が指摘しているように、「国・昭和」では伝統的な俳句形式にとらわれない②と③の収載率が低い。その後、②は「国・平成」、「国総」においてさらに収載率が低下し、③は収載率が高くなっていく。④は「国・昭和」から「国総」にかけて収載率が低くなっている。

②の河東碧梧桐は新傾向俳句の後に自由律の方向に進み、俳句形式は不安定なものであった。山下（1999）には史的類型に④の「ホトトギス主観句」が見られるが、例えば小西甚一（1995）では「ホトトギス主観句」は見られない。小西（1995）では飯田蛇笏と川端茅舎は

「『不易』の作者」として取り上げられており、村上鬼城は「日本派」のなかで取り上げられている。このことから、「ホトトギス主観句」の俳句史上での位置は不安定なものといえよう。収載率が大幅に低下する②と④に共通する点は「不安定」という点である。一方、④と同じ伝統的な俳句形式である⑤、⑥、⑦の収載率は、「国・昭和」から「国総」にかけて高い。「国・昭和」から「国総」にかけて俳句形式、俳句史上の位置が安定している⑤、⑥、⑦を中心に収載している状況にある。

### 5.3 各史的類型における俳人

①～⑦の各史的類型内における俳人を見してみる。①、②はそれぞれ収載される俳人が一名であるため、考察の対象から除く。

「国・昭」から「国総」における、③から⑦の各史的類型に見える俳人数は〔表7〕になる。

〔表7〕各史的類型に見える俳人数（人）			
	「国・昭和」	「国・平成」	「国総」
③	3	3	3
④	3	6	2
⑤	1	2	1
⑥	4	6	5
⑦	3	3	3

〔表7〕を見ると、「国・昭和」から「国総」において③と⑦に見える俳人数および俳人は変わらない。④、⑤、⑥に見える俳人数は「国・昭和」と比べ「国・平成」では多くなり、「国総」になると減少する。「国・平成」は「国・昭和」、「国総」と比べ、各史的類型において幅広い俳人を収載している。

「国・昭和」から「国総」において、③から⑦で複数の俳人を収載する教科書の割合は〔表8〕のようになる。「国・昭和」、「国総」では④、⑥、⑦、「国・平成」では③、④、⑤、⑥、⑦において複数の俳人を収載する教科書が見られる。「国・平成」は、「国・昭和」、「国総」と比べ、幅広い史的類型に複数の俳人を収載しており、収載する俳人の量的側面において充実している。「国総」では、「国・平」と比べ、史的類型を代表する俳人が減少し、複数の俳人を収載する教科書も減少している。

〔表8〕複数の俳人を収載する教科書の割合（％）			
	「国・昭和」	「国・平成」	「国総」
③	0 ( 0/ 5)	33.3 ( 6/18)	0 ( 0/19)
④	46.2 ( 6/13)	72.2 (13/18)	21.4 ( 3/14)
⑤	0 ( 0/17)	17.4 ( 4/23)	0 ( 0/22)
⑥	94.1 (16/17)	88.5 (23/26)	72.7 (16/22)
⑦	88.2 (15/17)	92.3 (24/26)	68.2 (15/22)

※表中の（ ）内の右側の数字は、各史的類型に属す俳人を収載している教科書の数を表す。左側の数字は、各史的類型に属す俳人を複数収載している教科書の数を表す。例えば、③の「国・平成」は、③の自由律俳句の俳人を収載した教科書は18種あり、そのうちの6種は自由律俳句に属す俳人を複数収載していることを表す。



「国・平成」と「国総」を比べてみると、③では俳人を複数収載するのではなく、1人を代表させて収載している。④においても、「国・平成」で6人の俳人が見られたが、「国総」では2人というように、収載される俳人が減少している。なかでも川端茅舎は「国・平成」で42.3%の収載率であったが、「国総」では収載されなくなっている。⑥を見ると「国・平成」で水原秋桜子、山口誓子の収載率がそれぞれ84.6%、96.2%と高く、両方とも収載する教科書が多かった。それが「国総」では一人を代表させて収載する教科書が増え、水原秋桜子69.6%、山口誓子78.3%と収載率が低くなっている。⑦は、「国・平成」で中村草田男、加藤楸邨の収載率が90%を超えていた。それが「国総」になると、中村草田男については収載率に大きな違いは見られないが、加藤楸邨は65.2%と収載率が低下している。石田波郷も61.5%から17.4%へと収載率が大幅に低くなっている。①から⑦の史的類型を代表する俳人は、「国・平成」に比べ「国総」では限定される状況にある。

#### 5.4 「国語総合」(平成27年)における①から⑦の史的類型に漏れる俳人

①から⑦以外の俳人を収載している教科書の割合は「表9」のようになる。

【表9】①から⑦以外の俳人を収載する教科書の割合(%)	
「国・昭和」	52.9
「国・平成」	76.9
「国総」	87.0

「国総」のほうが「国・昭和」、「国・平成」に比べ、①から⑦以外の俳人を収載する傾向にある。なかでも女性俳人の収載率が「国・昭和」で47.1%、「国・平成」で76.9%であったのが、「国総」では87.0%と高くなっている。

「国・昭和」、「国・平成」に見られず、「国総」に見られる俳人のうち、収載される割合が高いのは黛まどかである。黛まどかと同じ戦後生まれの俳人は「国・平成」では2人見られ、収載率は3.8%である。それが「国総」では8人見られ、収載率は43.5%と大幅に高くなっている。句を見てみると、テーマ、語彙、表記などに特徴が見られる。「国総」に見られる戦後生まれの俳人の句をすべて挙げる。

1 旅終へてよりB面の夏休	黛まどか
2 横綱を触りに行きしサングラス	黛まどか
3 待ちし一枚その中にあり年賀状	黛まどか
4 夜桜やひとつ筵に恋仇敵	黛まどか
5 会ひたくて逢ひたくて踏む薄氷	黛まどか
6 芒すすき光を生んで枯れている	鎌倉佐弓
7 クロイツェル・ソナタ折り鶴凍る夜	浦川聡子
8 笑いあう春のオルガンひくように	大高翔
9 春の水とは濡れてゐるみづのこと	長谷川權
10 冬深し柱の中の濤の音	長谷川權
11 未来より滝を吹き割る風来たる	夏石番矢

- 12 ゆたんぼのぶりきのなみのあはれかな 小澤實  
 13 子燕のこぼれむばかりにこぼれざる 小澤實  
 14 みづうみのみなとのなつのみじかけれ 田中裕明

戦後生まれの俳人の句を見ると、アルファベットを用いた語彙（1）、カタカナ語（2、7、8）、平仮名表記の句（12、14）、17音という限られた音数に同語を用いる句（5、6、9、13）、同音の語で表記を変えている句（5、6、9）、名詞句のみで構成されている句（7）が見られる<sup>注4</sup>。これら外形の特徴を有する句の他、恋をテーマにした句（3、4、5）も見られる。外形の特徴は高校生にも気づきやすく、テーマが恋というのも高校生が興味を持ちやすい。このように、「国総」に収載されている戦後生まれの俳人の句は、高校生の興味・関心をひきやすい句が多い。

「国総」は「国・平」に比べ①から⑦の史的類型に見られる俳人が限定的であった。その一方で、①から⑦以外の俳人を収載する傾向にあるという点に多彩さを見ることができる。

## 6 おわりに

本稿で明らかにしてきたことを整理する。現行の学習指導要領では言語活動の充実が図られたが、「国総」では俳句に関する言語活動を取り入れている教科書はわずかであり、俳句は鑑賞が中心となっている。「国総」の収載句数、鑑賞文を収載する教科書の割合、収載される鑑賞文の種類が「国・昭和」、「国・平成」と比べ減少しており、「国総」では俳句教材が狭まっていることを明らかにした。

俳句史の枠を用いて考察した結果、俳句史において重要な位置を占める⑤、⑥、⑦は「国・昭和」、「国・平成」、「国総」において収載率が高かった。「国・平成」までは俳句史の史的類型に複数の俳人を収載する傾向にあり、「国・平成」では④、⑤、⑥に収載される俳人の範囲も広がった。「国総」では「国・平成」と比べ、④、⑤、⑥に収載される俳人が減り、史的類型に一人を代表させて収載させる教科書の割合が増加していた。「国総」では①から⑦の俳人の収載率は減少するが、その一方で①から⑦以外の俳人を収載する教科書の割合は高くなっており、①から⑦の範囲外の俳人に広がりが見えた。なかでも女性俳人と、戦後生まれの俳人の収載率が高くなっており、戦後生まれの俳人の句は高校生の興味・関心をひきやすいものであった。

### 注

- 1 「現行の学習指導要領」は平成20年、平成21年改定の学習指導要領を指す。
- 2 『教科書編集趣意書』は文部科学省ホームページに掲載されている。
- 3 例えば小西（1995）の史的類型は「日本派」、「新傾向俳句」、「ホトトギス」、「自由律」、「プロレタリア俳句」、「新興俳句」、「人間俳句」の七類型となっている。
- 4 「ゆたんぼのぶりきのなみのあはれかな」の「ぶりき」はカタカナ語であるが平仮名表記している。

### 〔参考文献〕

- 石塚修（2013）『「切れ」からはじめる俳句の創作指導』『人文科教育研究』40巻、41 - 48頁  
 入江昌明（2005）「小学校における俳句教材の在り方について—平成17年度使用予定の教科書を

- 中心に一』『神戸女子短期大学論攷』50巻、1 - 10頁
- 入江昌明 (2006 ①)「平成以降の中学国語教科書における俳句教材について (1)」『神戸女子短期大学論攷』51巻、1 - 14頁
- 入江昌明 (2006 ②)「平成以降の中学国語教科書における俳句教材について (2)」『神戸女子短期大学論攷』51巻、15 - 29頁
- 植阪友理・光嶋昭善 (2013)「創作と鑑賞の一体化を取り入れた俳句指導—国語における新たな単元構成の提案—」『教育心理学研究』61巻4号、398 - 411頁
- 小川雅子 (2018)「小学校における伝統的な言語文化の指導：俳句の創作と書写」『山形大学教職・教育実践研究』13巻、11 - 19頁
- 小川雅子・武田優実 (2019)「中学校における俳句の指導：批評文を書く」『山形大学教職・教育実践研究』14巻、11 - 20頁
- 吉樂均 (2013)「根拠を明確に示して自分の考えを説明する力を高める指導」『教育実践研究』第23集、19 - 24頁
- 小瀬千恵子 (2012)「俳句のはなし」『天華』6巻10号、8 - 9頁
- 小西甚一 (1995)『俳句の世界』講談社学術文庫
- 貞光威 (1987)「高等学校教科書『国語Ⅰ』『国語Ⅱ』における近代俳句教材」『聖徳学園岐阜教育大学国語国文学』6巻、84 - 109頁
- 貞光威 (1997)「高等学校教科書『国語Ⅰ』『国語Ⅱ』における近・現代俳句教材」『聖徳学園岐阜教育大学紀要』33巻、263 - 298頁
- 桃原千英子・松本修 (2015)「中学生における俳句の読みと創作」『総合学術研究紀要』第1号、75 - 89頁
- 仁野平智明 (2016)「小学校国語教科書教材に見る『伝統的な言語文化に関する事項』新設の影響：俳句教材の変遷を中心に」『熊本大学教育学部紀要』65巻、7 - 15頁
- 藤田万喜子 (2008)「言語感覚を磨く俳句の指導—『切れ』を意識して—」『岐阜聖徳学園大学国語国文学』27号、48 - 58頁
- 山下一海 (1999)『俳句の歴史—室町俳諧から戦後俳句まで—』朝日新聞社

※本稿は令和元年度解釈学会全国大会で口頭発表したものに加筆・修正したものである。

## ○〔別表1〕の見方

※1、表の左欄は山下（1999）に挙げられている史的類型を表す。本稿では①から⑦を考察に用いる。

※2、表中の「山下（1999）の記述」は各史的類型の山下（1999）の説明を抜き出したものである。

※3、表の右欄には各史的類型に含まれる俳人を示した。

〔別表1〕 山下（1999）における記述

史的類型		山下（1999）の記述	俳人
①正岡子規		・実際の情景を客観的に写す（134頁） ・ものを見てありのままに描きだすことによって、近代的な個人を生かそうとする（135頁）	正岡子規
②新傾向俳句		・季題に別の事物を取り合わせ、季題の力によって間接的にさまざまな感想を呼び起こそうとする（147頁） ・実感の尊重から心理描写に向かった（161頁） ・覚醒的自我による動的・自然描写（161頁） ・伝統的な俳句の規定的な五・七・五の三段落調を逸脱する（161頁）	河東碧梧桐
③自由律俳句		・実感や心理のみならず、気分や情緒といったものを表そうとしている（163頁） ・伝統的に俳句を強く縛り続けてきた文語表現や定型・季題を克服して、新しい口語自由律俳句が誕生（163頁） ・俳句は、自然と自己が一体となって、その全体を暗示的に表現する印象詩であり、さらには象徴詩の域にまで到達すべきもの（165頁）（井泉水） ・時境を暗示的、直接的に、自由に吐露する（166頁） ・自己に忠実な行き方をし、その心境をそのままに表した（167頁）（山頭火・放哉） ・自分と俳句を完全に一つのものにしてしまう（169頁）	中塚一碧楼 萩原井泉水 種田山頭火 尾崎放哉
第三の境域		・人間と自然の二者合一、物心一如を説く（183頁）（東洋城） ・自然のうちに自己の心を没入させて、みずから見、みずから感じたところをうたおうとした（186頁）（月斗） ・俳句道即人間道という姿勢によって、一句一章論を提唱（187頁）（垂浪） ・対象を客観物として描くだけではなく、対象と自分を一体のものとしてとらえようとする（188頁） ・自然を凝視することを重んじ、しかもそこに自己を盛りこもうとする（189頁）	松根東洋城 青木月斗 白田垂浪
ホトトギス	④主観句	・自分の主観を強く打ち出す（159頁） ・無情のものを有情に見る（156頁）（水巴） ・みずからの不幸に根ざした自他への強い憐憫の情がこもっている（156頁）（鬼城） ・客観的な態度の底に深く熱情が潜んでいる（157頁）（蛇笏） ・簡素、雄勁なところに特色がある（158頁）（普羅） ・緊張した言葉遣い（159頁）（石贈）	渡辺水巴 村上鬼城 飯田蛇笏 前田普羅 原石鼎 川端茅舎
	⑤客観句	・目に見たことを忠実に写す（173頁） ・客観の写生（174頁） ・自己を抑制して対象を客観視することを重んじる（189頁） ・客観の根底にある作者の主観を重視（192頁） ・花鳥諷詠とは花鳥風月を諷詠すること（202頁） ・人が有情の眼で自然に対し、自然が温かい情緒を以て人に対して来る。人と自然のそういう交歓が諷詠である。（209頁）	西山泊雲 島村はじめ 鈴木花蓑 池内たけし 野村泊月 岩木麿 高浜虚子 高野素十
⑥新興俳句		・反伝統主義の俳句運動（221頁） ・主観性を尊重し、俳句に人間的な抒情を回復する（221頁）（秋桜子） ・新しい素材を取り上げようとしている（224頁）（秋桜子） ・漢語をまったく用いず、単純な語彙によって、平易な言葉遣いで、のびやかに綴られる抒情（227頁）（窓秋） ・新題材、新境地を求めてとどまらない（229頁）（誓子） ・無季俳句容認（237頁）（天の川）	水原秋桜子 高屋窓秋 山口誓子 篠原風作 秋元不死男 日野草城 西東三鬼 富沢赤黄男
⑦人間探求派		・自分と俳句を一枚のものにしてしまい、自己の追求がそのまま俳句の追求になるようにしようとする（244頁）	石田波郷 加藤楸郎 中村草田男
戦場俳句		・かたわらの花鳥に視線をそらすようなところはなく、戦争を正面から受け止めているところに特色がある。といって現実を見据えるわけではなく、雅語に陶醉している感じもある。（252頁） ・戦争の現実を、とくに敵兵に焦点を定めながら、つとめて主観を抑えて精確にとらえ、その観察の徹底するところに人間的な視線が感じられて、鑑賞者の共感を得るという経過の全体が評価される（256頁） ・実際に戦争に参加しての句（258頁）	長谷川素逝
戦火想望俳句		・想像による戦争俳句（258頁）	西東三鬼

※ 3、表中の①～⑦は「別表1」の史的類型を表す。

[illegible]

[illegible]

	俳人	句	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	計
	森澄雄	鳴門見て讃岐麦秋満をなす	○																							1
	飯田龍太	一月の川一月の谷の中				○																				1
	飯田龍太	鯉雲日かげは水の音迅く				○																				1
	飯田龍太	大寒の一戸もかくれなき故郷				○																				1
	三橋敏雄	いつせいに柱の燃ゆる都かな																○								1
	高柳重信	降る雪のかなた蠟燭の輪の舞踏靴																					○	○		2
	鷹羽狩行	摩天楼より新緑がバセリほど																					○	○		2
	鷹羽狩行	一体か一対一か枯野人																				○				1
	鷹羽狩行	胡桃割る胡桃の中に使はぬ部屋																				○				1
	坪内稔典	たんぼぼのぼぼのあたりが火事です				○	○							○	○											4
	坪内稔典	愛はなほ青くて痛くて桐の花											○													1
	長谷川耀	春の水とは濡れてゐるみづのこと				○	○																			2
	長谷川耀	冬深し柱の中の謠の音																○								1
	夏石番矢	未来より滝を吹き割る風來たる				○	○																			2
	小澤實	ゆたんぼのふりきのなみのあはれかな				○	○																			2
	小澤實	子燕のこぼれむばかりこぼれざる																○								1
	田中裕明	みづうみのみなのなつのみじかけれ																○								1
		計	12	16	16	26	21	12	12	10	12	12	12	16	16	24	24	18	16	21	21	16	0	12	12	357

1：新編国語総合（東京書籍） 2：精選国語総合（東京書籍） 3：国語総合 現代文編（三省堂）  
4：高等学校国語総合 現代文編（三省堂） 5：精選国語総合（三省堂） 6：明解国語総合（三省堂）  
7：国語総合（教育出版） 8：新編国語総合 言葉の世界へ（教育出版） 9：国語総合 現代文編（大修館）  
10：精選国語総合（大修館） 11：新編国語総合（大修館） 12：国語総合 現代文編（数研出版）  
13：高等学校国語総合（数研出版） 14：高等学校国語総合（明治書院）  
15：精選国語総合現代文編（明治書院） 16：精選国語総合 現代文編（筑摩書房） 17：国語総合（筑摩書房）  
18：高等学校新訂国語総合 現代文編（第一学習社） 19：高等学校国語総合（第一学習社）  
20：高等学校標準国語総合（第一学習社） 21：高等学校新編国語総合（第一学習社）  
22：探求国語総合 現代文・表現編（桐原書店） 23：国語総合（桐原書店）

## ○ [別表3][別表4] の説明

※ 1、表中左欄の①～⑦は山下(1999)から抽出した俳句史の枠を表す。①は「正岡子規」、②は「新傾向俳句」、③は「自由律俳句」、④は「ホトトギス主観句」、⑤は「ホトトギス客観句」、⑥は「新興俳句」、⑦は「人間探求派」を表す。表中の「女性」は、山下(1999)ではなく、筆者が付したものである。

※ 2、①～⑦以外の俳人は、女流俳人とその他で区別して配列した。それぞれ、俳人は生年が早い順に配列した。

※ 3、表中の「1」は「国語Ⅰ」、「2」は「国語Ⅱ」に収載されていることを表す。「○」は「国語Ⅰ」「国語Ⅱ」の両方に収載されていることを表す。

※ 4、表中の「収載率1」は俳人の収載率、「収載率2」は史的類型①～⑦の収載率を表す。

※ 5、表中の「収載率」は小数点第二位を四捨五入した。

※ 6、[表1]の「A」～「Q」、[表2]の「a」～「z」は、それぞれの表の下に記した教科書を表す。

[別表3]「国語Ⅰ」(昭和56年)、「国語Ⅱ」(昭和57年)に見られる俳人一覧

	俳人	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	収載率1 (%)	収載率2 (%)
①	正岡子規	2	2	2	1	2	2			2	1			1	1	1		2	70.6	70.6
②	河東碧梧桐		2	2				2	2	2		2	1	1					47.1	47.1
③	萩原井泉水		2																5.9	29.4
	尾崎放哉			2															5.9	
	種田山頭火					2					1						2		17.6	
④	飯田蛇笏	2	2	2			2		2	2		1	1			1	2		58.8	76.5
	村上鬼城						2	2		2		2			2	2		2	41.2	
	川端茅舎	2								2		2			2				23.5	
⑤	高浜虚子	2	2	2	1	2	2	1	1	1	1	1	2	1	1	○	2	2	100	100
⑥	水原秋桜子	2	2	2	1	2	2	1	1	1		1	2	1	1	○	2	2	94.1	100
	山口誓子	2	2	2	1	2	2	2	2	1	1	1	2	1	○		2	2	94.1	
	西東三鬼	2		2								2				2			23.5	
	富沢赤黄男															2			5.9	
⑦	中村草田男	2	2	2	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	100	100
	加藤楸邨	2	2		1		2	1	1	1		1	2	1		1	2	2	76.5	
	石田波郷	2				2	2	2	2	2	1	1	1	1					58.8	
女性	杉田久女								1	1						2			17.6	47.1
	橋本多佳子			2									1		2				17.6	
	中村汀女							1		2		2				1			23.5	
	夏目漱石														1				5.9	
	金子兜太											1	2						11.8	
	森澄雄								2			2							11.8	
	飯田龍太							2				2			2				17.6	

A：国語Ⅰ・Ⅱ（東京書籍） B：高等学校Ⅰ・Ⅱ（学校図書） C：新国語Ⅰ・Ⅱ（三省堂）  
D：国語Ⅰ・Ⅱ（教育出版） E：国語Ⅰ・Ⅱ（光村図書） F：高等学校国語Ⅰ・Ⅱ（大修館）  
G：基本国語Ⅰ・Ⅱ（明治書院） H：精選国語Ⅰ・Ⅱ（明治書院） I：高等学校国語Ⅰ・Ⅱ（右文書院）  
J：高等学校用国語Ⅰ・Ⅱ（筑摩書房） K：高等学校総合国語Ⅰ・Ⅱ（角川書店） L：高等学校精選国語Ⅰ・Ⅱ（角川書店） M：高等学校国語Ⅰ・Ⅱ（旺文社） N：高等学校Ⅰ・Ⅱ（尚学図書）  
O：高等学校新選国語Ⅰ・Ⅱ（尚学図書） P：高等学校新国語Ⅰ・Ⅱ（第一学習社） Q：高等学校国語Ⅰ・Ⅱ（第一学習社）



〔別表4〕「国語Ⅰ」(平成6年)、「国語Ⅱ」(平成7年)に見られる俳人一覧

	俳人	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	収載率1 (%)	収載率2 (%)
①	正岡子規		2	1	2	2		1	1	2	○	2	1		1	1	1	2		2	2	1	1	2		2	2	80.8	80.8
②	河東碧梧桐		1		2	2				1	1	2		2	2	2				2								38.5	38.5
③	萩原井泉水				2	2					1																	11.5	69.2
	尾崎放哉	2				2					1	1	2						1									23.1	
④	種田山頭火	2		1		2	1	1		2	○	1	2		2	2	1	2	1		2	2			2			65.4	69.2
	飯田蛇笏		2	1	2	2		1		1	1	1	1	1	2	2			○		2	2						57.7	
	村上鬼城					2				2	2	2	2		2	2					2	2	2			2	2	46.2	
	前田普羅																		1		2							7.7	
	原石鼎												1															3.8	
	渡辺水巴																		1									3.8	
	川端茅舎		2	2						2	1	2	1		2	2			○		2		2					42.3	
	高浜虚子		○	1	2	2		1		1	○	1	○	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	88.5	
⑤	高野素十					2							2		2	2												15.4	100
⑥	水原秋桜子	2	2	2	2	2		1		2	○	2	○	1	1	1	1		○	2	2	1	1	2		2	2	84.6	
	山口誓子	2	2	1	2	2	1	1		1	○	1	○	1	1	1	1	2	○	2	2	1	1	2	2	2	2	96.2	
	西東三鬼		2	2						1		1	1						1									23.1	
	富沢赤黄男																		1									3.8	
	秋元不死男						1																					3.8	
⑦	日野草城												2							2								7.7	100
	中村草田男		2	1	2	2	1	1	1	1	○	1	1	2	1	1	1	2	○	2	2	1	1	2	2	2	2	96.2	
	加藤楸郎	2	2	1	2	2	1	1	1	2	○	2	1	1	1	1	1	2	○		2	2	2	2		2	2	92.3	
	石田波郷		2	2		2	1	1		1	○	1	○	2	2	2	1		1	2	2							61.5	
女性	杉田久女					2	1		1		1	2	1	2						2	2	2						38.5	76.9
	橋本多佳子						1						2						1				2					19.2	
	三橋鷹女																		1					2				7.7	
	中村汀女		1	1		2	1			1	1	1	1		1	1		1	2	2	1		2					57.7	
	星野立子							1																				3.8	
	細見綾子			2									1															7.7	
	橋本美代子										2																	3.8	
	野沢節子																		1									3.8	
	夏目漱石										1									2	2	1						15.4	
	富安風生												○															3.8	
	室生犀星																		1									3.8	
	久保田万太郎										1								1		2							11.5	
	山口青都												2															3.8	
	西島麦南																			2								3.8	
	大野林火					2							2							2								11.5	
	松本たかし												1								2							7.7	
	山畑祿郎										2																	3.8	
	能村登四郎							1																				3.8	
	木下夕爾																		1									3.8	
	金子兜太			1			1				1	2							1		2							23.1	
	沢木欣一						1																					3.8	
	森澄雄																		1									3.8	
	飯田龍太			2			1			2				2	1	1			1		2		2					34.6	
	三橋敏雄																		1									3.8	
	高柳重信												2											2				7.7	
	藤田湘子							1											1									7.7	
	鷹羽狩行												2															3.8	
	坪内稔典										2																	3.8	
	加古宗也										2																	3.8	
	皆吉司										2																	3.8	

a：新版高等国語Ⅰ・Ⅱ（日本書籍） b：国語Ⅰ・Ⅱ（東京書籍） c：新編国語Ⅰ・Ⅱ（東京書籍） d：高等学校国語Ⅰ・Ⅱ（学校図書） e：基礎国語（学校図書） f：国語Ⅰ・Ⅱ（三省堂） g：明解国語Ⅰ・Ⅱ（三省堂） h：国語Ⅰ・Ⅱ（教育出版） i：高等学校国語Ⅰ・Ⅱ

(大修館) j : 高等学校新国語 I・II (大修館) k : 現代の国語 I・II (大修館) l : 高校生  
の国語 I・II (明治書院) m : 精選新国語 I・II (明治書院) n : 高等学校新国語 I 高等  
学校総合国語 II (右文書院) o : 高等学校国語 I 高等学校総合国語 II (右文書院) p : 国  
語 I・II (筑摩書房) q : 新編国語 I・II (筑摩書房) r : 高等学校国語 I・II (角川書店)  
s : 新国語 I・II (旺文社) t : 高等学校国語 I・II (旺文社) u : 新選国語 I・II (尚学図  
書) v : 標準図書 I・II (尚学図書) w : 新国語 I・II (尚学図書) x : 高等学校新編国語  
I・II (第一学習社) y : 高等学校国語 I・II (第一学習社) z : 高等学校新訂国語 I・II  
(第一学習社)

○ [別表5] の見方

※ 1、表中の「1」～「23」は表の下に記した教科書を表す。

※ 2、表中の「○」は教科書に収載されていることを表す。

[別表5]「国語総合」(平成 27 年)に見られる俳人一覧

	俳人	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	収載率 1 (%)	収載率 2 (%)
①	正岡子規	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	78.3	78.3
②	河東碧梧桐									○	○	○	○												17.4	17.4
	萩原井泉水						○																		4.3	
③	尾崎放哉																○						○	○	13.0	82.6
	種田山頭火	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○		○			○				65.2	
④	飯田蛇笏	○	○	○			○	○		○	○	○			○	○	○	○							52.2	60.9
	村上鬼城									○	○	○							○	○					21.7	
⑤	高浜虚子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	95.7	95.7
	水原秋桜子	○	○	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	69.6	
	山口誓子	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	78.3	
⑥	西東三鬼					○		○	○								○								17.4	95.7
	秋元不死男																○								4.3	
	篠原鳳作						○																		4.3	
	中村草田男	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	91.3	
⑦	加藤楸郎						○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	65.2	95.7
	石田波郷	○								○	○						○								17.4	
	杉田久女							○	○			○					○	○							21.7	
	吉屋信子															○	○								8.7	
	橋本多佳子	○			○	○	○		○												○				26.1	
	三橋鷹女																○						○	○	13.0	
	中村汀女	○					○		○	○	○	○	○	○											34.8	
	細見綾子					○																			4.3	87.0
	瀬戸内寂聴															○	○								8.7	
	黒田杏子																						○	○	8.7	
	鎌倉佐弓						○																		4.3	
	浦川聡子						○																		4.3	
	黛まどか	○	○	○	○	○						○	○	○											34.8	
	大高翔						○																		4.3	
	森鷗外															○	○								8.7	
	夏目漱石															○	○								8.7	
	室生犀星															○	○								8.7	
	久保田万太郎															○	○								8.7	
	芥川龍之介															○	○								8.7	
	佐藤春夫															○	○								8.7	
	能村登四郎																	○							4.3	
	金子兜太															○	○			○		○	○		21.7	
	森澄雄	○					○																		8.7	
	飯田龍太				○																				4.3	
	三橋敏雄																○								4.3	
	高柳重信																						○	○	8.7	
	鷹羽狩行																			○		○	○		13.0	
	坪内稔典				○	○						○	○	○											21.7	
	長谷川權				○	○											○								13.0	
	夏石番矢				○	○																			8.7	
	小澤實				○	○											○								13.0	
	田中裕明																○								4.3	

1：新編国語総合（東京書籍） 2：精選国語総合（東京書籍） 3：国語総合 現代文編（三省堂）  
 4：高等学校国語総合 現代文編（三省堂） 5：精選国語総合（三省堂） 6：明解国語総合（三省堂）  
 7：国語総合（教育出版） 8：新編国語総合 言葉の世界へ（教育出版） 9：国語総合

現代文編（大修館） 10：精選国語総合（大修館） 11：新編国語総合（大修館） 12：国語総合  
現代文編（数研出版） 13：高等学校国語総合（数研出版） 14：高等学校国語総合（明治書院）  
15：精選国語総合現代文編（明治書院） 16：精選国語総合 現代文編（筑摩書房） 17：国語総合  
（筑摩書房） 18：高等学校新訂国語総合 現代文編（第一学習社） 19：高等学校国語総合  
（第一学習社） 20：高等学校標準国語総合（第一学習社） 21：高等学校新編国語総合（第一学  
習社） 22：探求国語総合 現代文・表現編（桐原書店） 23：国語総合（桐原書店）